



親子ふれあい体験



今年度は親子でのふれあいをさらに楽しんでもらいたく、親子で参加できる、『クッキング・おもしろ実験・南米音楽』を聴こうを計画しました。どのイベントにもたくさんの親子が参加し、大盛りあがりでした。

クッキングでは、「豆腐ハンバーグ、ポテトサラダ、おにぎり」を作りました。クッキングというとどうしても大人が行うイメージが強いですが、今回は子どもたちにたくさんお手伝いをしてもらい、お家の方は難しいところをサポートする形でした。会話を楽しみながら作った料理はとてもおいしくできました。子どもたちもできることができ嬉しくて楽しそうでした。今後、クッキングを行う楽しさに繋がってくれると嬉しいです。

おもしろ実験では電子レンジの実験。「普段は電子レンジの中には入れない物を入れたらどうなるか?!」という内容でした。温まると思ったのに冷たいまま。火花がバチバチとなり「大興奮!!」となるはずが、当日は今いち。…そんなこともあるよねーという結果でしたが、「実験って面白いね」と科学の楽しさを味わっていました。これからも親子で楽しい時間を過ごせるよう、お手伝いをしていきたいです。

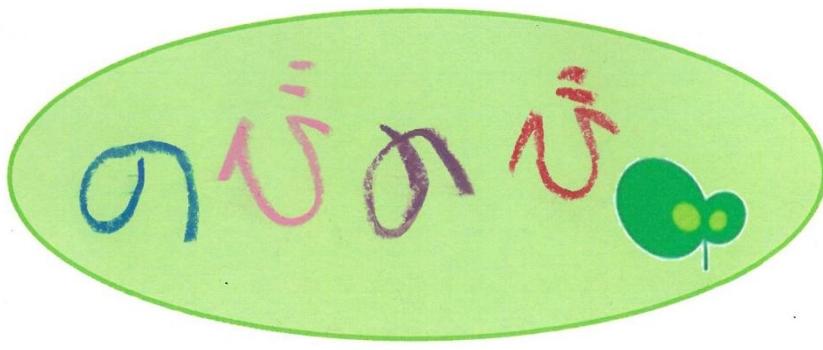


南米音楽を聴こうでは、南米の音楽に引き込まれ、よく聴いていたり、ノリの良い曲では親子で笑顔いっぱいに手拍子をしたりしていました。チャフチャス（ヤギの爪を使用した楽器…当日はペットボトルのキャップを使用した手作りのチャフチャスでした）を持って音楽に合わせ全員で鳴らし、一体感を味わいました。

KUSHIDA 選手が来たよ～

新日本プロレスのプロレスラーKUSHIDA選手(くっしー)が来ると知った子どもたちは、「戦ってみたい!」「大きいかな?」と会う前からすごく楽しみにしていました。当日、くっしーに会う前、ゆりさんはみんなで筋トレをしていました！絵本を読んでもらったり、遊んでもらったり、お話をしたり…くっしーVS園児のつなひきはとても白熱!!園児の勝利で子どもたちは大喜びでした。くっしーと会っている間、子どもたちはずっと笑顔で楽しい時間でした。





めぐみ幼稚園だより
No.8 2025.12.23
題字 さき

12月はじめ、寒さも気にせず年少児が近くの公園に遊びに行きました。「遊具が片付けられている公園でいっぱい遊んできました！」と担任が笑顔で教えてくれました。外遊びが大好きな子どもたちは、雨の日も雪の日も関係なく、いつも止むのを待ちきれず外に飛び出します。子ども時代をいっぱい遊んで、伸び伸びと過ごしてほしい、自分たちが楽しいと思うことを探して楽しんではほしい、そしてゆっくりじっくり育ってほしいと4年前に始めた「のびのびの日」は、すっかり定着し、嬉しいことに今では「のびのびの日」でなくても、幼稚園はいっぱい遊べるところになっています。先生たちは子どもの声に耳を傾ける。子どもが疑問に思ったことを、先回りせず子どもたちに考えさせる。子ども同士の話し合いを多くする。そしていいタイミングで声を掛けたり、環境を整えたりする。これらは「のびのびの日」を始めるにあたり、先生たちで決めた約束事の一部です。幼稚園生活の中で、子ども時間はゆっくり過ぎていくので、せつかちな大人時間で進めると、ついつい時間で区切ってしまいがちで、先生たちが苦労しているところです。9月に東洋大学名誉教授の先生が、園を見に来てくださる機会に恵まれました。「子どもたちの声がよく聞こえる。先生たちの声があまり聞こえない。ぎりぎりまで子どもに任せているね。」と取り組みに対する評価をいただき、励みになりました。また、運動会のご来賓で小学校の校長先生が、年長児が自分たちで決めて進めてきたクラス競技をご覧になり、「アントレプレナーシップ教育」についてふれた学校だよりで紹介してくださいました。初めて聞く教育でしたが勉強になり、みんなで何度も読み返し大切にしています。今年を振り返れば、暑すぎた夏、クマ出没、インフルエンザの早めの大流行といろいろな事が次々とおこり振り回されました。だからこそ、これから予測不能な社会に生きる子どもたちには、目の前の便利なものばかりに流されず、こんな時はどうしたらいいのか、どう進んだらいいのかとじっくり考えられる力を身に付けてほしいのです。「園舎も古く、設備も十分でない幼稚園で」とつぶやいた言葉に、「園舎が保育するわけじゃないから」と返してくださった教授の言葉に勇気づけられました。来年も子どもたちが主役の楽しい幼稚園を目指し、職員みんなで取り組みます。今年もお世話になりました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

園長 羽鳥敦子

ののさまのお悟り（成道会）

「みんなが幸せに過ごす」ためにどんなことが大切なのか…正円寺の星賢道先生からお話を聞かせてもらいました。「頑張ってみようという事を1つ決めてやってみる」「相手が嫌だな、困るなど思うことに気づいたらやめる」「自分の命、友だちや家族の命を大切にする」という3つの大事な事を教わりました。また、園長先生から座禅のやり方を教えてもらい、みんなでやってみました。ヒヨイッと足を組んでみる子、「アイタタ…」と、ちょっとびり難しいなと思う子。背中をピンッ！と伸ばしてみる事で気持ちがスッキリした子どもたちでした。



作品展の作品作り、そしてそれから

たんぽぽ組



自分の体よりも大きな大きなピザやペロペロキャンディーを作ったたんぽぽさん。新聞紙遊びを楽しんでいると思ったら、先生と一緒にぐーるぐーるっと巻いていつのまにか巨大なキャンディーに！

「何味のピザがいいかな？」と色々なトッピングを選んでハサミでチョキチョキ♪夢中になって山盛りのトッピングが出来上がり！遊びの延長で作品が出来上がっていくのを感じて、「楽しいね！」「もっとやりたい」と制作活動をめいっぱい楽しんでいました。



ちゅういっぷ組

「ねえ～今日お外で遊べる～？」が口癖の年少組は、外で遊ぶことが大好き!! 「雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ丈夫な体を持ち」まさにこの詩そのものです。そんな子どもたちと作品を作りあげていくにはどうしたら良いだろう…？ 子どもたちが作ることに夢中になって楽しめるにはどうすれば良いだろう…？ 子どもたちの姿を見ながらいろいろ悩んだ末、遊びの中で“作る”活動を入れていくことにしました。

- ・さつま芋掘りで、小さすぎて捨てられるはずの芋を使い、絵の具で色を塗って目をつけ、芋虫に。
- ・外で葉っぱを集めて、葉っぱスタンプをし、目や口を描き足すことで、葉っぱの家族に。
- ・牛乳パックを切って作ったトンボの羽を自分の肩につけてトンボになりきって飛びまわったり !!
- ・羽が動くちょうどよを作って、パタパタさせながら花の蜜をさがしに行ったり !!

どれも机上ではなく青空の下で、子どもたちの自由な発想で作り進めてきました。子どもたちにとっては、作るというよりも“遊ぶ”という感覚だったかもしれません。外で遊ぶことが好きなクラスだったからこそ、青空の下で活動することで、やりたい意欲や集中力、楽しい気持ちが増し、結果として素敵な作品がたくさん出来上がったのだろうと思います。作品展当日は、お家の人に「これこうやって作ったの～!!」「みんなでこうやって遊んだんだよ！」とうれしそうに目をキラキラさせて伝えていました。





力を合わせみんなで作ったお城。完成すると嬉しくて、作品展の前からお城の中でままごとやかくれんぼ…と楽しんでいました。作品展後も引き続き楽しみ、子どもたちの秘密基地のようになっています。

さくら組



ゆい組

ゆり組の部屋を『おばけだらけ👻』にして、みんなを驚かせたい!!と色々とアイデアを出し合いながら、みんなで楽しく作り上げていきました。ただ作りたい作品を考えるだけでなく「小さい子が怖がらないようにかわいいおばけも作ろう」「こうしたらおばけが出てくる仕組みはどう?」「部屋を暗くするとせっかく作ったのが(作品)見えないから懐中電灯を使えば?」等、こちらが驚くようなアイデアを次々と考える子どもたち。そんな、さすが✨のゆりさんは
作品展後も、おばけの家を使ってアイス屋さんごっこをしたり、当日は怖くて仕方なったメリーさんと仲良くなったり(笑)と、新たなアイデアを出しながら遊びを展開し楽しんでいます 😊